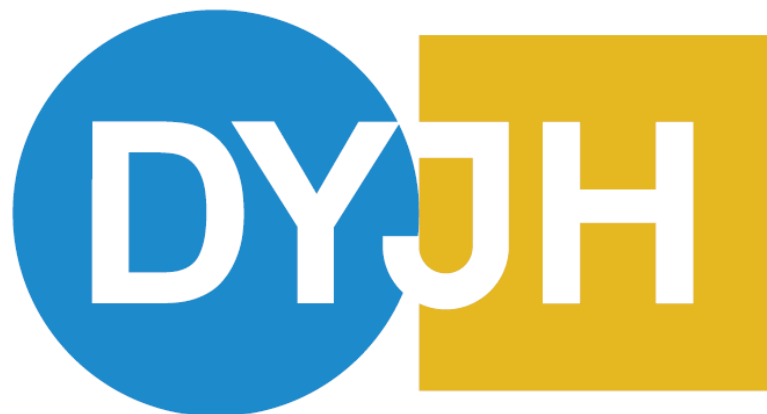




ダイナムジャパンホールディングス

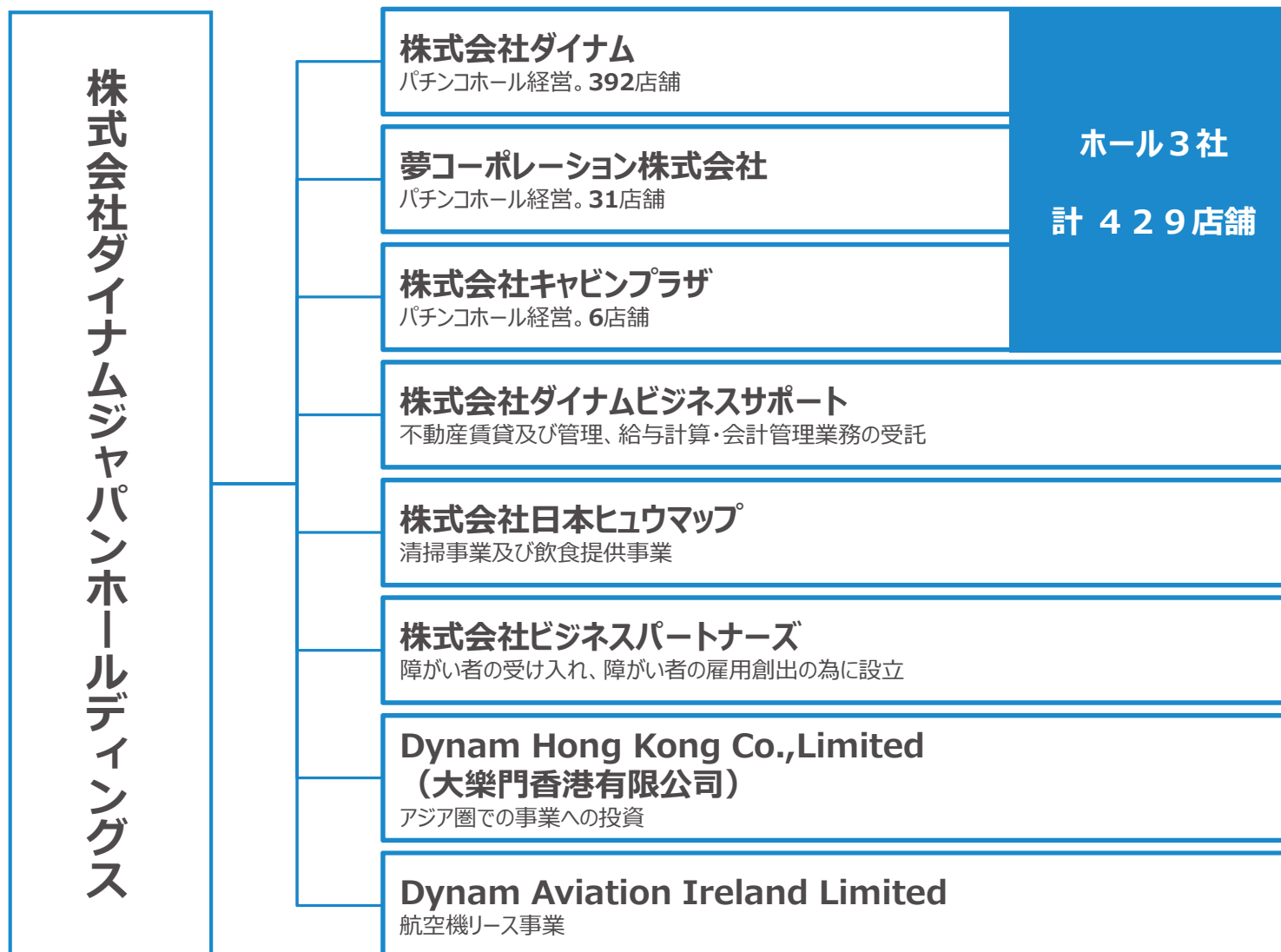
2023年3月期 決算説明会
(参考和訳)

2023年5月25日

【目次】

1. 通期業績ハイライト①（グループ連結）
2. 通期業績ハイライト②（基幹会社ダイナム）
3. パチンコ事業
4. 航空機リース事業・その他事業
5. 財務概況

DYJHグループ企業組織図（2023年3月31日現在）



【目次】

1. 通期業績ハイライト①（グループ連結）
2. 通期業績ハイライト②（基幹会社ダイナム）
3. パチンコ事業
4. 航空機リース事業・その他事業
5. 財務概況

1. 通期業績ハイライト①（グループ連結）

（単位：百万円）

	当期	前期	増減	前期比
営業収入	117,206	105,141	+12,065	111.5%
営業利益	6,764	10,654	▲3,890	63.5%
当期利益	1,798	4,977	▲3,179	36.1%

営業収入は、パチンコ事業の稼働向上により増収を確保。
利益面では、遊技機償却負担の上昇やエネルギー価格の高騰により
営業費用が増加し、減益の業績結果。

2. 通期業績ハイライト②（基幹会社ダイナム）

（単位：百万円）

	当期	前期	増減	前期比	概要
営業収入	107,500	97,730	+9,770	110.0%	パチンコ +7,993(112.1%) スロット +1,919(106.7%)
機械関連費用	29,107	14,435	+14,672	201.6%	遊技機償却費の増加
水道光熱費	6,612	4,588	+2,024	144.1%	電気代の高騰
人件費	34,280	36,428	▲2,148	94.1%	店舗運営人件費の削減
その他費用	36,076	36,441	▲365	99.0%	
営業外損益	401	2,912	▲2,511	13.8%	国からの雇用調整助成金受取額の減少
経常利益	1,827	8,749	▲6,922	20.9%	

※パチンコ事業の中核会社（ダイナム）の日本基準での当期決算数値

2. 通期業績ハイライト②（基幹会社ダイナム）

項目	当期	前期	増減	概要
店舗数	392店舗	396店舗	▲4店舗	開店3：鹿児島伊集院店、愛媛四国中央店、焼山店 閉店7：長野飯田店、七日町店、北越谷店、 新発田店、酒田広野店、岩船店、名取店
パチンコ稼働率 (※①)	29.5%	29.9%	▲0.4pt	競合店差+2.5pt (※②)
スロット稼働率 (※①)	24.1%	24.1%	0pt	競合店差▲2.9pt (※②)
設置台数	185,433台	185,971台	▲538台	設置台数業界シェア 5.3%
P B機設置台数	13,127台	19,840台	▲6,713台	設置割合10.1%（前期差▲5.1pt）（※③）

※① 稼働率…ピーク時（15時及び19時平均）の[実客数／設置台数]2022年4月1日～2023年3月31日の平均

※② 競合店の数値は全国のダイナム店舗近隣に所在する約1,200店舗に対して実施する客数調査をもとに算出

※③ 設置割合はパチンコ設置台数に対する割合

【目次】

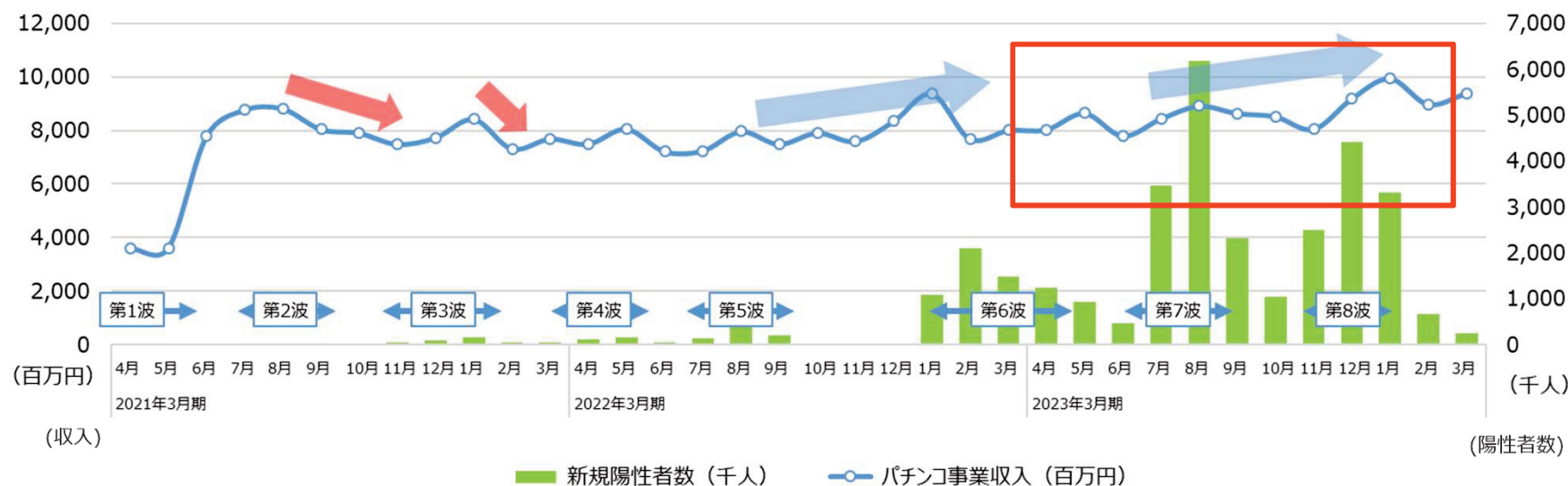
1. 通期業績ハイライト①（グループ連結）
2. 通期業績ハイライト②（基幹会社ダイナム）
- 3. パチンコ事業**
4. 航空機リース事業・その他事業
5. 財務概況

3. パチンコ事業について

(1) 新型コロナウイルスによる自社影響

- ☐ コロナ禍以降、陽性者数の増加と共に客数が減少しパチンコ事業収入に影響発生。
- ☐ 2023年3月期は、陽性者数の増加による影響は継続したものの、スロットを中心に客数回復が見られ、パチンコ事業収入は好転基調。
- ☐ 2024年3月期は、スマート機の普及による新規顧客層の開拓により、業績回復に繋げる。

新型コロナウイルス陽性者数と遊技業収入の推移（2021年3月期より）

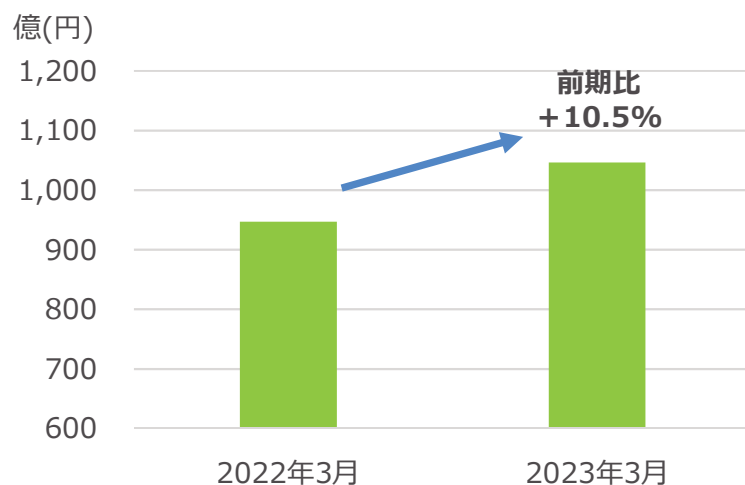


3. パチンコ事業について

(2) パチンコ事業収入の推移

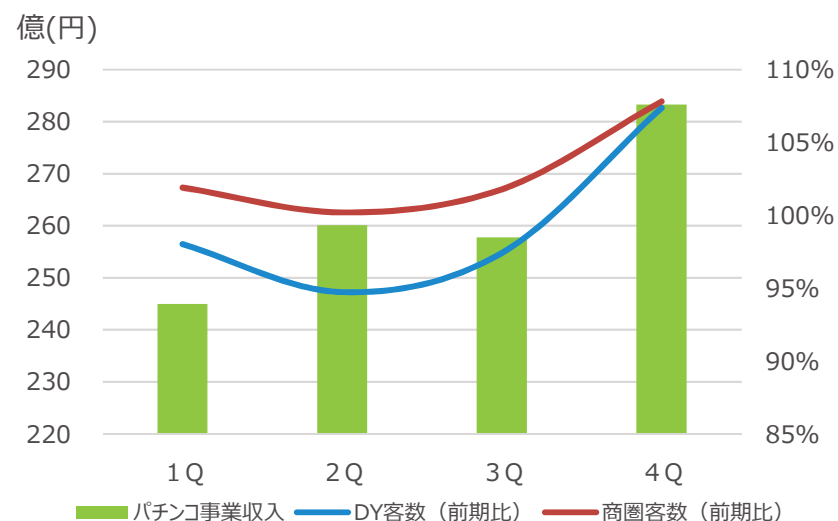
- パチンコ機、スロット機において、新規則に対応した複数の人気機種が登場したことによりパチンコ事業収入は大幅に増収。
- 2022年11月より導入が開始された「スマートスロット」は、顧客から多くの期待を集めており、2023年4月導入の「スマートパチンコ」と合わせて、さらなる収益力の向上に繋げる。

(DY) パチンコ事業収入



パチンコ事業収入 946.9億円→1046.0億円

スマスロ導入による客数変化



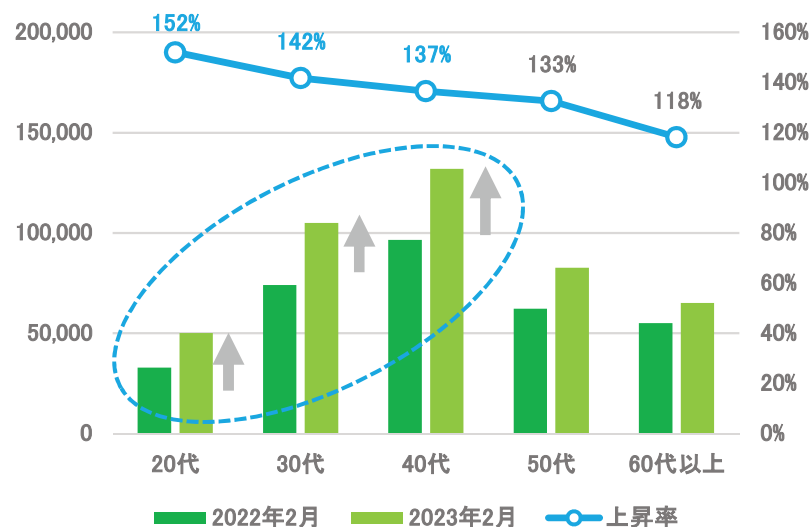
スマートスロット導入(11/21~)により客数が増加

3. パチンコ事業について

(3) スマート遊技機(スマスロ)導入による影響

- 11月より導入が開始されたスマートスロットにより全社のスロット売上・収入が大幅に改善。4月以降も主力タイトルの発売が予定されており、業績回復に向けて取り組む。
- 全ての年代で客数が増加し、特に若中年層の増加が顕著。スマート機による環境変化に対応することで、さらに幅広い客層の新規獲得に繋げる。

スロット年代別客数（前期比）



スマートスロットにより若中年の休眠層が遊技再開

幅広い客層に支持される店舗づくり

現在

シニア層の顧客満足を追求



スマート機による環境の変化

今後

幅広い客層の新規開拓へ

【情報】

新規ユーザーの獲得に向けて、パチンコ、スロットの遊び方から楽しさを伝える情報提供の強化。

【スマート機投資】

スマート機の優先確保と顧客ニーズに即した商品構成の提供。

【環境】

リニューアルによる既存店舗の環境整備を推進。スマート機による新たな遊技環境提案やユニバーサルデザインの見直し等、新規客層獲得に向けた投資を実施。

3. パチンコ事業について

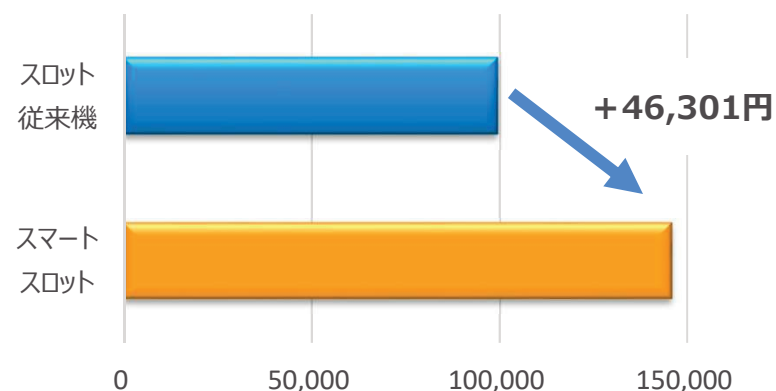
(4) スマート遊技機の特徴

ユーザーのメリット	ホールの経費削減	業界の健全化
☐ 遊技機スペックの大幅な向上 ☐ 玉・メダルレスによる利便向上 遊技人口の増加	☐ 玉・メダルレスによる ☐ ローコストオペレーションの推進 ☐ 島設備（補給機装置等）が不要 店づくりに新しい可能性	☐ セキュリティ強化と不正遊技の撲滅 ☐ パチンコ依存問題対策の強化 業界の社会的信用力の向上

◇スマートスロット機の収入性能は
従来機を大きく上回る

- ・規制緩和によりゲーム性の幅、スペック性能が向上
- ・新規ユーザーの獲得・コロナ以降の離反ユーザーの再来店

新台導入1ヵ月時点、1台あたりの収入(累計)



※従来機（2022年3月期）

3. パチンコ事業について

(5) 今後の成長戦略

- スマート遊技機（スマパチ・スマスロ）への投資による収入増加
- 既存店の大規模リニューアルを通じた新規顧客開拓（旗艦店の再建）
- 機械流通の活性化によるコスト適正化（社内中古機の戦略的活用）
- 新たな出店形態の確立（新規出店・M&A・リプレイス）



スマート遊技機の導入



【スマパチ】4/3導入開始



【スマパチ】4/17導入開始



【スマスロ】4/3導入開始

2023年4月以降も遊技性能の高い注目機種がPSとともに登場

©車田正美・東映アニメーション ©車田正美／集英社・東映アニメーション ©SANYO BUSSAN CO.,LTD.
©モンキー・パンチ／2019映画「ルパン三世」製作委員会, ©H E I W A

スマート遊技機の特徴を活かした新業態の検討



スマート機専用PS併用島の開発



小規模化により空港や
ショッピングモール等への出店の検討

【目次】

1. 通期業績ハイライト①（グループ連結）
2. 通期業績ハイライト②（基幹会社ダイナム）
3. パチンコ事業
4. 航空機リース事業・その他事業
5. 財務概況

4. 航空機リース事業

(単位：百万円)

	当期	前期	増減	前期比
リース収入	2,875	1,553	+1,322	185.1%
営業費用	1,834	961	+873	190.8%
金融収益費用等	599	340	+259	176.2%
事業利益	442	252	+190	175.4%

保有機体数	6	3	+3	200.0%
航空機資産残高	41,130	17,000	+24,130	241.9%



4. 航空機リース事業

■ 収益の拡大に向けて

（１）新規契約獲得

- ・2022年10月、ハンガリーのLCC Wizz Airと航空機2機をSLB取引により購入する契約を締結。
- ・機体は2023年7月-12月にかけて順次引き渡しの予定。

（２）リース管理の体制構築及びリース管理業務受託

- ・テクニカル、リース管理、法務の責任者を採用し、自社でリース管理を行う体制を構築。
- ・今後は航空機リース事業を行う他社からリース管理業務を受託し、収益を拡大させる。

4. その他事業～カジノ向けビデオスロットの開発～

■マカオ市場

(単位：億円)

	2022年度				2023年度
	1－3月	4－6月	7－9月	10－12月	1－3月
総粗利	2,933	1,402	916	1,713	5,716
前年比	75%	33%	30%	54%	195%
コロナ前 2019年比	23%	12%	8%	14%	45%

1MOP = 16.50円で算出

出典：DICJホームページ（マカオゲーミング管理部門）ゲーミングの月間総粗利の数値を基に作成

カジノ総粗利は2022年はコロナ前と比較し大きく低迷していたが、2023年に入り入境制限が全面的に解除されたため大幅に回復

■トピックス

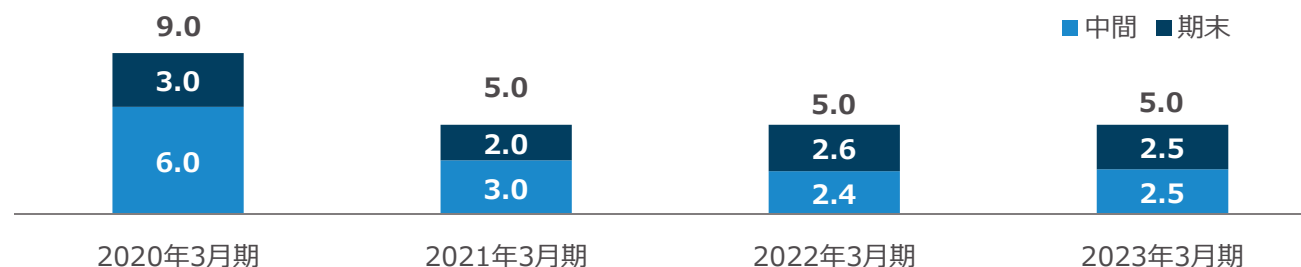
- ・マカオの入境制限解除に伴い、トライアル交渉に向けた情報収集のためオペレーターとのコンタクトを再開
トライアルで必須となるマカオEGMテクニカルスタンダードバージョン2.0対応は、2022年9月にDICJの承認を取得済
- ・マレーシアでのトライアルをはじめとして、今後はアジア圏での販売活動を計画
- ・コロナ禍における消費者のデジタル活用の増加により、開発済のゲームのオンライン転用などの検討を開始

期末配当金 1株当たり配当金 2.5円

■ 配当額

	期末配当	中間配当	年間配当
配当基準日	2023年6月5日	2022年12月13日	-
1株当たり配当金	2.5円	2.5円	5.0円
配当金総額	1,783百万円	1,791百万円	3,574百万円
配当金支払日	2023年6月23日	2023年1月13日	-

■ 1株当たり配当金推移（単位：円）



（参考）当期において、自己株式 9,079,200株（発行済株式の約1.3%）の市場買付を実施。

【目次】

1. 通期業績ハイライト①（グループ連結）
2. 通期業績ハイライト②（基幹会社ダイナム）
3. パチンコ事業
4. 航空機リース事業・その他事業
5. 財務概況

5. 財務概況



連結損益計算書 (IFRS)

(単位：百万円)

	当期 (2023/3)	前期 (2022/3)	増減	補足説明
営業収入	117,206	105,141	+12,065	
パチンコ事業収入	114,331	103,588	+10,743	高貸玉店舗 55,993(+4,700) 低貸玉店舗 58,338(+6,043)
航空機リース事業収入	2,875	1,553	+1,322	保有航空機 +3機 (3機→6機)
パチンコ事業費用	110,484	93,950	+16,534	遊技機償却費の増加 +16,057 水道光熱費の増加 +2,169 店舗運営人件費の減少 ▲2,243
航空機リース事業費用	1,834	961	+873	
一般管理費	4,309	4,279	+30	
その他収入	8,663	9,114	▲451	店舗立退補償金 +817 (リニア中央新幹線：DY長野飯田店) 雇用調整助成金等受取額の減少 ▲1,917(2,456→539)
その他費用	2,478	4,411	▲1,933	店舗減損損失の減少 ▲2,173
営業利益	6,764	10,654	▲3,890	
金融収益	450	426	+24	
金融費用	3,277	2,571	+706	
税引前当期利益	3,937	8,509	▲4,572	
当期利益	1,798	4,977	▲3,179	
EBITDA	43,729	32,383	+11,346	

(注) EBITDA は、当期利益に金融費用、税金、減価償却費(使用権資産償却費を除く)、為替差損益を加えて計算しております。

5. 財務概況



連結財政状態計算書（IFRS）

（単位：百万円）

	当期末 (2023/3)	前期末 (2022/3)	増減	当期末の主な内訳・前期末からの増減等			
				科目	当期末	前期末	増減
資産合計	325,608	293,421	+ 32,187	航空機	41,130	17,000	+ 24,130
				遊技機	36,281	28,958	+ 7,323
				その他有形固定資産	69,465	72,690	▲ 3,225
				使用権資産	76,741	73,850	+ 2,891
				現金及び預金	59,605	56,508	+ 3,097
負債合計	197,181	162,439	+ 34,742	リース負債	91,697	89,262	+ 2,435
				未払金・未払費用	14,732	12,312	+ 2,420
				有利子負債	72,167	43,141	+ 29,026
資本金	15,000	15,000	-				
剰余金等	113,427	115,982	▲ 2,555	当期利益(親会社帰属利益)	1,806	4,997	▲ 3,191
				前期期末配当支払額	▲ 3,669	▲ 3,261	▲ 408
				その他の当期包括利益等	▲ 692	426	▲ 1,118
資本合計	128,427	130,982	▲ 2,555	連結自己資本比率	39.4%	44.6%	▲ 5.2
負債及び資本合計	325,608	293,421	+ 32,187				

連結有利子負債及び自己資本比率（IFRS）

（単位：百万円）

【連結有利子負債】

	当期末 (2023/3)	比率	前期末 (2022/3)	比率
現金及び預金	59,605	18.3%	56,508	19.3%
有利子負債合計	72,167	22.2%	43,141	14.7%
有利子負債(日本法人)	47,090	14.5%	32,945	11.2%
有利子負債(海外法人)	25,077	7.7%	10,196	3.5%
ネットキャッシュ	▲12,562	▲3.9%	13,367	4.6%
資産合計	325,608	100.0%	293,421	100.0%

航空機リース事業にて、新造機3機の新規購入等があり、ネットキャッシュは25,929百万円減少。

【連結自己資本比率】

	当期末 (2023/3)	比率	前期末 (2022/3)	比率
資本金	15,000	4.6%	15,000	5.1%
剰余金等	113,427	34.8%	115,982	39.5%
資本合計	128,427	39.4%	130,982	44.6%
資産合計	325,608	100.0%	293,421	100.0%

基幹会社ダイナムの概況（日本基準で決算実施）

（単位：百万円）

	当期 (2023/3)	前期 (2022/3)	増減	補足説明
遊技業収入	104,601	94,689	+9,912	前期比増減 P : +7,993 S : +1,919
自販機手数料収入	2,899	3,041	▲142	
販売費及び一般管理費	106,074	91,893	+14,181	機械関連費用+14,672 水道光熱費+2,024 人件費▲2,148
営業利益	1,426	5,837	▲4,411	
経常利益	1,827	8,749	▲6,922	
特別利益	912	-	+912	長野飯田店 立退補償金(リニア)受取 817
特別損失	1,143	1,277	▲134	
当期利益	910	4,893	▲3,983	
	当期末 (2023/3)	前期末 (2022/3)	増減	補足説明
総資産	141,312	124,929	+16,383	流動資産+12,168 固定資産+4,215
負債	55,829	36,678	+19,151	借入金+16,066 未払消費税等+1,301
純資産	85,483	88,251	▲2,768	当期利益+910 親会社への配当支払▲3,744
自己資本比率	60.5%	70.6%	▲10.1	

免責事項と著作権について

この資料に掲載されている今後の予測・戦略等に関する情報は、本資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で為した判断に基づくものです。しかしながら現実には、通常予測し得ないような特別事情の発生などにより、本資料掲載の見通しとは異なる結果を生じるリスクを含んでおります。

当社と致しましては、投資家の皆様にとって重要と考えられる情報につきましては開示に努めて参りますが、本資料掲載の見通しのみに全面的に依拠してご判断されることは、くれぐれもお控えいただきますようお願い致します。

なお、いかなる目的であっても、当社の事前の同意がない限り、当資料を無断で複写複製、または転送等を行わないようお願い致します。

●お問合せ

(株) ダイナムジャパンホールディングス 財務・広報グループ

mail : info@dyjh.co.jp